

# 令和7（2025）年度 東京都立山崎高等学校 学校経営報告

## ○東京都教育委員会目標

・スクール・ミッション

## ○スクール・ポリシー

・グラデュエーション・ポリシー ・カリキュラム・ポリシー  
・アドミッション・ポリシー

## ○本校の教育目標と目指す学校

- ・ユネスコスクールとしてESDの推進拠点となる持続可能な教育実践に取り組み、自らの行動に自信をつけさせ自己肯定感を高める教育活動を通じて、生徒一人一人が変化する社会に柔軟に対応する力（知識・技能・思考力・判断力・表現力・コミュニケーション力）を培い、共に挑戦し学び続ける心身の構えが身に付いた生徒を育成する。
- ・生徒の心身の安全と秩序の向上を最優先した教育活動を通して、（敬愛）互いの人権を尊重し、（協働）協力し合いながら、生徒一人一人が将来の夢や希望をかなえるために、（克己）自分の弱さを克服し、（高志）志を高めて自ら学びに向かおうとする姿勢を養い、18歳成年年齢を踏まえた立ち居振る舞いができる主権者を育成する。

## ○本校のグランドデザイン

**Anniversary 40<sup>th</sup>**  
since 1983

## 山高魅力化プロジェクト

18歳成年に相応しい立ち居振る舞いができる主権者の育成

- ・教育課程実践検証協力校（国立教育政策研究所）
- ・ユネスコスクール（日本ユネスコ協会）
- ・教職大学院連携協力校（東京都教職員研修センター）
- ・AI教材活用推進校・学力向上研究校（教育庁指導部高校教育改革）

## ○町田市・山崎町と緊密な連携

- ・町田市立山崎中学校、町田市立七国山小学校、正和幼稚園、町田青年会議所等と連携した教育活動
- ・東京都町田市への郷土愛の更なる育成・山崎高校生の町田市・山崎町への理解伸長 ・地域の課題解決へ貢献（防災・防犯・地域活性化）

## ○高大連携

- ・桜美林大学、玉川大学、東京家政学院大学等との連携

観点	中期的目標と方策	今年度の教育活動の目標と方策	重点目標と方策	自己評価・報告
学習指導	<p>■ 「東京型教育モデル」を実践し、習熟度や進路希望等の個性や能力を踏まえた個別最適化を推進</p> <p>【目標】 Society5.0 時代を切り拓くイノベーション人材を育成</p> <p>【方策】</p> <p>1-1 カリキュラム・ポリシーに基づき、教科会、教科主任会、職員研修連絡会を開催して、学力分析、学習指導分析等を深化させ、組織的に生徒の学力の向上を図ります。</p>	<p>【目標】 一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現</p> <p>【方策】</p> <p>2-1 一人ひとりの個性や能力に合った最適な学びの実現を図るために、小中学校で学んできた道德教育を織り込み、説明中心型の授業ではなく、生徒同士の学び合いの時間と振返時間を全ての授業に組み込み</p>	<p>【目標】 全ての生徒に確かな学力を育む教育</p> <p>【方策と数値目標】 町田市立七国山小学校及び町田市立山崎中学校と連携して、相互の授業見学と合同研修を2回以上開催し35名以上参加</p> <p>3-1 「学びたくなる授業」づくりの定着化を意図して、長期休業期間の講座を改善し「本物を見て、触れ</p>	<p>町田市立七国山小学校及び町田市立山崎中学校と連携した相互の授業見学及び合同研修への参加者数 19名</p> <p>4-1 校外学習講座を7講座新設して実施し、41名の生徒が参加した。学校評価アンケートによれば、参加者のうち83%の生徒が教育的効果について肯定的に評価した。</p>

<p>1-2 カリキュラム・ポリシーを徹底し、すべての教育活動の質の向上を目指すために、TOKYO スマート・スクール・プロジェクトに基づき、教育のデジタル化を推進します。</p> <p>1-3 ユネスコスクールに相応しい持続可能な開発に向けた教育（ESD）を、義務教育までの道徳教育を礎にして、すべての教科・科目と、すべての学校行事等に織り交ぜて「主体的・対話的で深い学び」の実現と探究能力の向上を図ります。</p> <p>1-4 教科指導のなかで、興味関心や能力が高い生徒、または、将来の進路実現に向けて、プラス（入試や進路選択）になると考えられる生徒については、「ビブリオバトル」「スピーキングコンテスト」「サイエンスフェア」等の大会やコンテストへ意図的に参加を働きかけて、一人ひとりの個性や能力にあった最適な学びに取り組みます。</p> <p>1-5 10年度入学生からの教育課程を見直します。</p> <p>1-6 TOKYO GLOBAL GATEWAY 等を活用しコミュニケーション能力の向上を図ります。</p> <p>1-7 生徒一人1台タブレット端末やAI教材を活用して、授業外学習時間増を図り、学習習慣の定着につなげて、学力の向上を図ります。</p> <p>1-8 各教科で、資格取得や検定に取り組むことを検討いたします。</p>	<p>「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「学びたくなる授業」づくりの定着化を図ります。</p> <p>2-2 教科主任会議を時間割（木曜1時間目）に組み込み、「授業規律の運用と改善」「入学選抜」「模試」「共通テスト」等の分析等を行うとともに、教科書選定や教育課程、観点別評価やICT活用、施設・設備活用と充実等について共有化・共通化を深めて、授業改善と学力向上を図ります。</p> <p>2-3 習熟度クラスを設けて、個別最適な学びと協働的な学びを活性化させ、意欲の高い生徒の向学心を高めさせて、全生徒の意欲の向上を図ります。</p> <p>2-4 「総合的な探究の時間」は、コンソーシアム会議でPDCAをサイクルし、地域関係機関とともに授業づくりに取り組み、探究支援員を活用して、フィールドワーク等を通じた探究活動を実施し、課題発見能力や問題解決能力を育成する。そして、調べ学習に留まらないように、（1学年ではスライド発表、2学年では山崎サミット、3学年ではポスター発表等を評価の観点とします）。主体的な判断力や表現力を養います。</p> <p>2-5 全教員が、年間2回（新規採用者3回）授業を動画撮影して、教員相互が研鑽できる環境を整え、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善と授業力の向上に取り組めます。</p>	<p>て」リアルに学べるように校外学習講座（飛び出せ山崎）を新設します。</p> <p>3-2 小テスト等の授業内評価や単元別評価を重視して、定期考査のための授業ではなく、きめ細やかに習熟度を測り、小中学校までの道徳教育を織り込んだ学習環境を整え、学力向上を図ります。</p> <p>3-3 教室掲示物はできるだけ Teams へ移行するとともに、ゴミを持ち込まない指導を意図してゴミ箱を最小限化する等、教育環境のユニバーサルデザイン化を含めて、授業環境の改善向上を図ります。</p> <p>3-4 生徒に時間を管理することを意識化させることを意図して「ノーチャイム制」を導入し、授業開始のチャイムとともに授業開始を厳守させ自律を深化させ主体性を伸ばさせます。</p> <p>3-5 教職員が、クリーンデスクを含めた執務室の5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）に徹底して取り組み、生徒に模範を示します。</p> <p>3-6 各教科のシラバスを活用して、各教科で統一した授業規律等の徹底を図り、規範意識、公共心、道徳教育の充実を図り組織的な対応を徹底します。</p> <p>3-7 町田市立七国山小学校及び町田市立山崎中学校と連携して、相互の授業見学と合同研修を年2回以上実施し、発達を踏まえた段階的な学校教育の現状を把握し、授業力向上につなげます。</p>	<p>4-2 全学年において習熟度に応じたクラスを設置し、生徒の実態に応じた指導を行った。評価についてもクラスの特性に応じて実施したが、より統一的な指導を行うため、教科主任会において調整を一層強化する。</p> <p>4-3 リーフレットやポスターを除き、多くの教室掲示物を Teams や Classi を活用して配信した。しかし、教科ごとの取組に差が見られ、また3割程度の生徒が教育活動以外の日常生活においてタブレットを十分に活用できていない実態があった。教科主任会や各学年と連携し、生徒が主体的に一人1台端末を活用できるよう、取組を一層推進する。</p> <p>4-4 ノーチャイム制の導入により、全体の遅刻数が3割減少するなど、時間を守る意識の向上が見られた。次年度は、より個別最適な指導の充実に向け、朝のSHRに確実に参加するよう指導を強化する。</p> <p>4-5 教職員の9割以上が机上のクリーンデスクに取り組み、個人情報の紛失に関わる服務事故は0件だがヒヤリハットはあった。</p> <p>4-6 年度当初に教職員間で授業規律の共通理解を図り、組織的な対応を行った。教科主任会において対応が困難な事例を共有・検討し、取組の一層の強化を図る。</p> <p>4-7 小学校・中学校との合同研修を年3回実施し、教職員19名が参加した。また、高等学校の授業公開には近隣の教職員30名が参加した。次年度は教職員が参加しやすい体制を更に整備し、地域連携を踏まえた指導の充実につなげる。</p>
---	--	--	--

<p>生活指導・健康づくり</p>	<p>■ 生徒の成長を社会全体で支え、主体的に学び続ける力を育む「学び」  <b>【目標】生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進と、きめ細かいサポートの充実</b>  <b>【方策】</b>  1-1 コンプライアンスを徹底し、生命を大切にし、お互いを尊重する意識を醸成します。  1-2 持続可能な開発に向けた教育（ESD）をとおして、持続可能な環境づくりと美化活動等に取り組み、グローバルシチズンシップを醸成します。  1-3 人権尊重の理念を定着させ、あらゆる偏見や差別をなくす教育を充実します。  1-4 生命を大切にする心や他人を思いやる心、規範意識等を育む教育を充実します。  1-5 いじめ防止等の対策や自殺対策に資する教育を推進します。  1-6 生徒に寄り添い向き合う指導を充実させて、グラデュエーション・ポリシーにおける「社会性」、「主体性」、「実行力」の育成を図ります。また、リーダーシップ力を向上させながら、規範意識の向上を図り、18歳成年に相応しい立ち居振る舞い（挨拶、言葉使い、責任ある判断と行動等を含む）を身に付けさせます。</p>	<p><b>【目標】生徒の健全育成と心身の健康・体力向上の推進と、生徒の社会化</b>  <b>【方策】</b>  2-1 校則について、生徒・保護者・地域・関係機関・教職員等と協議を深めて見直しを図ります。  2-2 SNSなど「SNS山高ルール」を徹底し情報モラルやマナーを身に付けさせて、Society5.0時代を切り拓くイノベーション人材を育成します。  2-3 学校行事・生徒会活動・部活動は、生徒が主体となって、準備・実施・片付け・引き継ぎができるように立案・実施・評価・見直しを実施して、18歳成年に相応しい立ち居振る舞いを身に付け、真の自立を図ります。  2-4 「特別支援コーディネーター連絡会」を週1回（月曜日3時間目）開催し、特別支援教育コーディネーターがスクールカウンセラーと連携して、個別の支援や個別の教育相談活動の充実化と、ソーシャルスキルや非認知能力の向上を図るなど、生徒の自立と自律に向けた教育を推進します。  2-5 教職員が率先するとともに関係機関や保護者と連携して、自転車ヘルメット着用を推進します。</p>	<p><b>【目標】18歳年齢に相応しい立ち居振る舞い（主体的、自主・自律、権利と義務等）ができる主権者</b>  <b>【方策と数値目標】延べ遅刻数 5000以下</b>  3-1 教員間で生徒指導に差がないように、校則の見直しを引き続き深化させるとともに、時間講師等を含めた毎朝の打合せでの周知徹底、校内研修等を繰り返し実施する等、指導の共通化を図ります。  校則の点検と見直しについては（教育庁指導部高等学校教育指導課3教指高第36号）のとおり計画的にすすめます。  3-2 教職員等（TEAM山高）全員による統一した生活指導により、衛生的で、安全・安心な学習環境を整えて、健全な心身の育成を図ります。  3-3 町田の丘学園の支援の下、特別支援コーディネーター連絡会を中心に、教室等のユニバーサルデザインを推進し、特別支援教育の充実を図ります。  3-4 ユネスコスクールとしての活動を充実させ、生徒会・委員会活動等の深化・充実を図り、自己の役割や責任感を果たすことにより、主権者意識の向上と自己肯定感の向上につなげるとともに、グローバルシチズンシップを醸成します。</p>	<p>延べ遅刻数 10506回</p> <p>4-1・4-2 教職員間で授業規律を統一した指導を行い、生徒の77.1%、保護者の60.1%から肯定的な評価を得た。また、2月に教職員・生徒・保護者を交えた校則の見直しに関する協議を実施し、部活動時の登校時の服装等について検討を進めた。  4-3 スクールカウンセラーの支援を受け、特別支援コーディネーター連絡会を年25回実施した。また、10月22日の職員研修において、町田の丘学園より旭岡先生を講師として招聘し、ユニバーサルデザインの視点に関する理解を深めた。  4-4 全ての生徒がいずれかの委員会に所属し、自己の役割や責任を果たす指導を充実させた。生徒会活動においては、朝のボランティア活動や地域交流行事への参加、SNS山高ルールの改訂を通して、生徒の自己肯定感の向上とともに、学校全体の意識の向上を図った。  4-5 ヘルメット着用率に関して課題が残り、次年度の法改正と共に着用の徹底を図る。</p>
<p>進路指導</p>	<p>■ 生徒の個性と成長に合わせて意欲を引き出す「学び」  <b>【目標】世界に羽ばたくグローバル人材の育成</b>  <b>【方策】</b>  1-1 アドミッション・ポリシーを基に、人権教育、主権者教育等を実施して、18歳成人に相応しい立ち居振る舞いのできる主権者を育成します。</p>	<p><b>【目標】夢と志をもち挑戦しようとする力を育む教育</b>  <b>【方策】</b>  2-1 1年生から3年生までの面接指導を全教員体制で実施し、生徒理解を深めながら、生徒の進路実現に向けた相談と具体的な指導・助言に取り組み、教員間で情報共有を図り、計画的・組織的に生徒の意識と面接対応能力の向上を図ります。</p>	<p><b>【目標】高いレベルでの進路実現の達成率向上</b>  <b>【方策と数値目標】進路決定率 100%</b>  3-1 多様な進路希望に対応するために、「面接対策（年3回以上）」を1学年から3学年まで実施します。その際に、1・2年生は、非行防止や不登校未然防止を意図して、夏季休業期間終了日までに1回以上実施します。3年生で校長推薦が必要な者は8月28日までに校長面接を実施</p>	<p>進路決定率 93%</p> <p>4-1 全学年において生徒全員を対象とした面接を実施した。1学年は53%、2学年は59%の生徒が夏季休業前に面接を終え、3学年では推薦が必要な生徒51名全員に対して校長面接を実施した。これにより進路実現に資するとともに、生徒一人ひとりの悩みや考えに寄り添った個別最適な指導を行った。</p>

	<p>1-2 グラデュエーション・ポリシーにおける「創造力」、「表現力」、「課題発見力」を育成し、変化する社会に柔軟に対応する力を養います。</p> <p>1-3 「総合的な探究の時間」における体験活動等が進路実現に関係していることを生徒に指導し、入学時からのキャリア教育と重ねあわせて、「創造力」「課題発見力」を向上させ、18歳成年に相応しい立ち居振る舞いができる主権者を育成します。</p> <p>1-4 東京都教育委員会が推進する海外研修等、都立学校ならではの事業への参加を推進し、前例に捉われずに、都立学校としての強みを生かした教育に、積極的に取り組みます。</p> <p>1-5 国内修学旅行を廃止し、海外研修（3年次の長期休業期間）を実施して、グローバルシチズンシップの育成を図ります。</p>	<p>2-2 「総合的な探究の時間」において、アウトプットすることに重点を置いた指導を計画し「表現力」の向上を図り、卒業後の進路活動における面接・論文等に活用できるように深化させます。</p> <p>2-3 生徒（上位層及び中位層）が、さらに、学力を伸ばし、進路実現を果たして行けるような、講習（ゼロ隈目）等を実施するとともに、学習が苦手な生徒（中位層及び下位層）の学力向上に向けた取組を、引き続き、粘り強く行うとともに、入学選抜等の分析会や模擬試験等の事前学習期間を工夫する等の改善を図ります（2学期始業日の工夫等）。</p> <p>2-4 海外交流 PT を設置し、R7 年度に海外研修（台湾）を実施します。</p>	<p>するとともに、全教職員で生徒の進路実現を支援します。</p> <p>3-2 ユネスコ活動を基に、町田市や山崎町を焦点化した探究学習に取り組み、「山崎サミット」を開催する等、関係機関や地域住民と意見交換（コンソーシアム）をしながら持続可能な開発に向けた教育（ESD）の充実化を図ります。</p> <p>3-3 玉川大学及び桜美林大学との連携を深め、高等教育について理解の深化を図り、キャリア教育の充実化を図ります。</p> <p>3-4 町田青年会議所及び町田山崎団地商店街等との交流を深化させ、共同して生徒の社会化を図り地域の教育力を活用したキャリア教育を推進します。</p>	<p>4-2 年6回のコンソーシアム会議を実施し、まちやま祭及びまちやまサミットの実現に向けた建設的な協議を行った。これにより両行事の充実を図るとともに、探究学習の指導に関する基本的な考え方を共有し、指導計画の改善を行った。次年度は更なる PDCA サイクルの充実を図る。</p> <p>4-3 玉川大学の小林教授による講演を1学年対象に1回、教職員対象に1回実施した。また、桜美林大学と連携し、まちやま祭の運営に取り組みすることで、キャリア教育の充実につなげた。</p> <p>4-4・4-5 探究学習の一環として台湾との交流を実施するとともに、海外研修旅行を実施した。32名の生徒が参加し、国際理解の深化を図った費用対効果が高い充実した旅行となった。</p>
<p>特別活動等</p>	<p><b>【目標】特別活動等の充実化</b> <b>【方策】</b></p> <p>1-1 生涯を通じて、たくましく生きるために必要な体力を育む教育を推進します。また、健康で充実した生活を送るための力を育む教育を推進します。</p> <p>1-2 危険を予測し回避する能力や、社会の安全に貢献できる資質・能力を育む教育を推進します。</p> <p>1-3 生徒会・委員会が中心となって、学校行事の一層の充実を図り愛校心や帰属意識、郷土理解、リーダー性を高めます。</p> <p>1-4 生徒会活動の活性化を図り、生徒の主体的な参加を通じてスポーツや文化活動に親しみ、これまで培ってきたオリンピック・パラリンピ</p>	<p><b>【目標】学校行事や生徒会活動によるリーダー養成</b> <b>【方策】</b></p> <p>2-1 地域の関係機関等と連携を図り、学校内外を問わず、発表・実践を通して、知識・技能の伸長を図るとともに、主体性と主権者意識を育てます。</p> <p>2-2 学校行事や生徒会活動では、生徒が主役となり生徒自身が企画・運営（清掃・片付け・改善・引き継ぎを含む）に取り組み、達成感と成就感等を経験させて、自主自立を図ります。</p> <p>2-3 生徒委員会活動を重視し、地域関係機関との交流及び他校交流を推進して、自主自立の精神やリーダー</p>	<p><b>【目標】学校の特色を生かした非認知能力の向上</b> <b>【方策と数値目標】ボランティア参加者100名以上、図書貸出冊数一人4冊以上</b></p> <p>3-1 ユネスコスクール認定校の特色を踏まえて、生徒委員会数について、生徒一人一人に役割を与えて、社会性を育むとともにコミュニケーション能力、課題解決能力や責任感等の深化を図り18歳成年年齢に相応しい主権者意識を身に付けさせます。</p> <p>3-2 委員会・部活動活動は、委員長会・部長会を毎月定期的に開催するとともに、(仮称：リーダー研修会)を新設し、リーダーシップの育成と、自主自立の向上を図ります。</p>	<p>ボランティア参加者140名、図書貸出冊数4933冊（1人当たり10.1冊）</p> <p>4-1 6月のGreen Day、9月の世界教師デー、12月の世界人権デーにおいて、委員会の生徒を中心に環境美化や人権意識の向上を目的とした取組を実施した。また、約140名の生徒が地域ボランティア活動に参加し、地域の中で自己の役割を認識し責任を果たす態度の育成を図った。</p> <p>4-2・4-3 7月22日にリーダー研修会を実施し、各委員会及び部活動の代表生徒が参加した。これにより、リーダーとしての自覚と主体的な行動力の向上を図った。</p>

	<p>ック教育の活動を「東京 2020 レガシー」の構築に向けて、さらにその先に社会で活躍するために必要な人間力を身に付ける教育を推進します。</p> <p>1-5 図書室の利用を促進し、読書活動をさらに推進させ、国語力や表現力を養わせ、読書意欲の向上と未読率の解消を図るとともに、ビブリオバトル（書評合戦）等に積極的に参加します。</p>	<p>ーシップを育成して人間力の向上を図ります。</p> <p>2-4 部活動等の安全・充実の向上を図るため、学校規模（人・施設・予算）に見合った規模へ「選択と集中」を図り、地域や連携大学からの外部指導員等を積極的に活用することを推進して、中学校や地域等との交流をとおして部活動の推進を図ります。</p> <p>例：部活動や委員会顧問を兼任することを解消するとともに、教職員も生徒も活動が分散することがないように、活動曜日や活動時間を整頓して、学習活動と特別活動の安全・安心の向上を図ります。</p>	<p>3-3 オリエンテーション期間と各学期はじめに図書館からのガイダンス等を改善して、自学自習の生徒増を含めた図書活動の充実を推進します。</p> <p>3-4 ラウンジを活用して、学校行事の記録等を展示する等、自己肯定感の向上や学校生活の充実感向上が図れるように、改善・充実に取り組みます。</p> <p>3-5 ユネスコスクールとしてSDGsを推進し、「世界人権デー」「世界教師の日」「GreenDay」を計画的に実施します。</p>	<p>4-4 ラウンジに探究学習や海外交流に関するパネルを6枚設置し、生徒の取組の可視化を進めた。</p> <p>4-5 1学年全クラスを対象に図書館ガイダンスを実施するとともに、毎月図書館だよりを発行した。また、ビブリオバトルに1学年の生徒1名が参加するなど、読書活動の推進に成果が見られた。</p>
<p>家庭・地域との連携協力・交流活動、学校広報活動</p>	<p><b>【目標】</b> 地域・社会の教育資源を活用し、生徒を支え伸ばす教育活動の推進</p> <p><b>【方策】</b></p> <p>1-1 家庭や地域（警察、児相、子家セ等）との連携を深めて、18歳成年に相応しい立ち居振る舞いができる主権者を育成します。</p> <p>1-2 学校の魅力発信については、日頃の教育活動を動画にまとめ、保護者会や学校説明会等で、在学生から直接、本校保護者や中学生、中学生保護者へ発信できるように、保護者会や学校説明会等の運営方法と内容を改善します。</p> <p>1-3 地域（防災、防犯、交流イベント、環境美化）活動へ積極的に参加するとともに、海外及び国内のユネスコスクールとの交流を促進します。</p> <p>1-4 避難訓練や防災教育を見直し、避難所開設や帰宅訓練等、地域、関係機関、保護者を含めた内容へ改善を図り、実践的な力を養います。</p> <p>1-5 桜美林大学、玉川大学、東京家政学院大学等と連携を深めて、大</p>	<p><b>【目標】</b> 学校と家庭、地域・社会が一体となり、子供を見守り、育てる教育活動の推進</p> <p><b>【方策】</b></p> <p>2-1 授業公開、学校説明会、保護者会、学校行事等、保護者及び地域住民の参加者数増をめざして、開催の周知方法や内容の改善を図り、「山高」の魅力を発信します。</p> <p>2-2 山崎町や町田市と緊密に連携して避難・防災・防犯体制を常に見直し、「危機管理マニュアル」等を細やかに更新するなど、学校課題を発見・改善する校内研修を意図的、計画的に実施します。</p> <p>2-3 山崎町や町田市へ貢献できるような体験をとおして、生徒の自己肯定感の向上が図れるような連携を推進します。また、山崎町や町田市と連携して安全教育、防災教育の充実化を図ります。</p> <p>2-4 町田市立七国山小学校及び町田市立山崎中学校と本校との連携をさらに深化させます。</p> <p>2-5 学校 HP と Twitter の更新回数と内容の改善を図り、保護者、地域、関係機関等から、さらに信頼が</p>	<p><b>【目標】</b> 町田市・山崎町等地域との連携・交流</p> <p><b>【方策と数値目標】</b> 学校 HP 更新 50 回以上、Instagram100 回以上、授業公開、学校説明会、保護者会・学校行事等の来校者数 2100 名以上、学校説明会 300 名以上</p> <p>3-1 生徒会（委員会・部活動を含む）生徒を中心として、地域貢献活動に力を入れ、地域清掃や挨拶運動、ボランティア活動に積極的に参加させます。地域の方々にふれあい、社会の力になる体験をさせ自己肯定感を高め、非認知能力の向上を図ります。</p> <p>3-2 「総合的な探究の時間」等の教育活動を実施するにあたり、山崎団地自治会、山崎団地名店街、町田市青年会議所、玉川大学教育学部等とともにコンソーシアム会議を年4回開催して、持続可能な地域探究に取り組みます。</p> <p>3-3 「幼小中高合同文化祭」は、委員会活動や学習活動の成果発表等を充実させ、改善を図ります。</p> <p>3-4 国内ユネスコスクールへ訪問する等、教員間・生徒間交流を充実</p>	<p>学校 HP 更新 187 回、Instagram 更新 111 回、来校者数合計 1461 名、学校説明会参加者 528 名参加</p> <p>4-1 朝のボランティア活動や地域交流行事への参加、SNS 山高ルールの改訂を通して、生徒の社会の一員としての意識の向上を図るとともに、自己肯定感の向上及び学校全体の意識の向上につながった。</p> <p>4-2 年6回のコンソーシアム会議を実施し、まちやま祭及びまちやまサミットの実現に向けた協議を行った。これにより、地域と連携した教育活動の充実を図った。</p> <p>4-3 幼少中高合同文化祭の名称を「まちやま祭」とし、実行委員会を組織して計画的な運営を行った。また、吹奏楽部やダンス部を中心に部活動の参加を推進し、地域に開かれた学びの場としての機能を高めた。</p> <p>4-4 11月7日に七国山小学校(3年生)・本校(1年生)との地域連携「合同防災訓練」を実施。異年齢交流を通じて、教育効果を共に高め合う相乗効果を得ることができた。</p>

	<p>学生や大学関係者等との交流をとおして、生徒の自立・自律を深化させます。</p>	<p>高まる、開かれた学校づくりを推進します。</p>	<p>させて、他者理解能力やコミュニケーション能力等の向上を図ります。</p>	
<p>学校経営・組織体制</p>	<p><b>【目標】 学びを支える教師力・学校力の強化</b> <b>【方策】</b> 1-1 教育公務員として、高い使命感・倫理観をもって服務規律を遵守（コンプライアンス）し、生徒・保護者・地域関係機関等から信頼されるように常に見直しと改善を図ります。 1-2 質の高い教育を支えるための環境と、質の高い学校教育を支える施設・設備等を整備します。 1-3 ライフ・ワーク・バランスの推進への取組を促進します（「年休・夏休取得推進週間」「定時退庁週間」等）。 1-4 C4thや採点システム等のデジタル技術を活用して業務の効率化（時間等）を図ります。 1-5 教育公務員の魅力・やりがいを発信し、誰もが「山高」に勤務したくなるような学校づくりを推進します。 教育行政や学校教育の仕事の楽しさや魅力、そして、都立学校で勤務することの充実感や達成感等、喜びが感じられる風土づくりを意識化したOJTに取り組みます。 1-6 地域や町田市立小中学校の声に耳を傾けて、伝統を引き継ぎ、信頼される学校経営いたします。 1-7 創立50周年に向けた計画を立案し、着実に発展・進化させます。</p>	<p><b>【目標】「TOKYOスマート・スクール・プロジェクト」の推進</b> <b>【方策】</b> 2-1 「学び方改革」「教え方改革」「働き方改革」の3つの改革を同時に推進します。 2-2 コンプライアンス厳守、確実な点検確認作業を心かけて実施し、事故の未然防止を図ります。 2-3 教職員が執務室の5S（整理・整頓・清潔・清掃・躰）に取り組む、事故未然防止の向上を図るとともに、業務の効率化を図ります。 2-4 教育系と行政系の担当業務を見直し、経営企画室の負担を軽減し、経営企画機能を高め、学校経営参画を推進し、教育系と行政系の職員が組織的に連携した学校運営や施設管理を行います。 2-5 イクボス宣言、在宅勤務、男性育休、時差勤務、定時退庁週間・年休取得推進週間等を推進して、ライフ・ワーク・バランスを推進します。 2-6 登下校時や授業等で部活動指定品を活用できるように改善する等、「費用対効果」を評価して学校指定品の見直しを図ります。 2-7 「教育的効果」「費用対効果」を評価して学校行事、授業内容、年間計画等の改善を図ります。 2-8 団体旅行で観光地を巡るような国内修学旅行ではなく、卒業旅行や海外派遣研修を実施します。</p>	<p><b>【目標】 ライフ・ワーク・バランス推進と組織活性化</b> <b>【方策と数値目標】 超勤時間月80時間以上ゼロ・45時間以上ゼロ、いじめや生徒事故・体罰等のサービス事故ゼロ</b> 3-1 法令違反やコンプライアンス違反は、遅滞なく関係機関へ連絡し、厳正なる対応を徹底します。 3-2 経営企画室施設担当とミドルリーダー等が連携し、中心となって計画立案し、全教職員で、教室、執務室、教科準備室、実習・実験室等の整理（不必要な物の廃棄）・整頓・清潔・清掃を強化し、害虫駆除等校内衛生の確実な向上を図ります。 3-3 未来を支える生徒と教職員を育成するためにICT機器等のデジタル技術を活用した校務（働き方改革、東京DX等）を推進します。 3-4 校内研修連絡会を毎週水曜日放課後に開催して、いじめ、体罰、ハラスメント、入学選抜、服務等の違反や事故未然防止を図ります。 3-5 ミドルリーダー等による校内研修等、人材育成の充実化を図り、企画調整会議や教科主任会議を活性化させ人づくりと組織づくりを深化させます。 主幹教諭が主任教諭を育成し、主任教諭が教諭へ指導・助言しながら支援をするような体制を深化させて、教育公務員としてのやりがいや成果が実感できて喜びが感じられる人材育成を図ります。</p>	<p>超過勤務時間月80時間以上6名・月45時間以上延べ91名、いじめ1件・生徒事故1件・体罰等のサービス事故0件</p> <p>4-1 コンプライアンスを逸脱する事案が2件発生したが、速やかに関係機関と連携し対応するとともに、再発防止に向けた教職員研修を実施した。 4-2 校舎改築に伴い次年度夏季の引越し業務に向け、全教職員で物品整理や環境美化活動に取り組んだ。移転に向けた準備を計画的に先回りした対応を進めていく。 4-3 ICT機器を活用し、朝の職員打合せを5分以内で実施する取組を新たに導入した。これにより業務の効率化を図り、充実した朝のSHRの実現に寄与した。次年度は定着させ、更なる改善を図る。 4-4 職員研修を年25回実施し、サービス事故防止、特別支援教育、ユネスコスクール、入学選抜等に関する内容を扱い、教職員の資質向上を図った。 4-5 教科主任会議を年17回開催し、職層に応じた教科OJTを推進した。次年度は取組の更なる充実を図る。</p>